

### 第3回 鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成30年9月20日(月) 午前9時30分から
- 会 場 グランド エル・サン
- 委員発言の概要

#### 構成素案について

- ・めざす都市像とまちづくりの基本方針は、前計画ではやや長い文章となっている。特にめざす都市像の場合は、どこの自治体にもあてはまるような内容だった。今回は、できるだけ市民に親しんでもらえる、覚えられるものにしたい。次の10年は鶴岡市はこうだ、ということを経営できる内容を目指していきたい。
- ・めざす都市像とまちづくりの基本方針を検討するにあたっては、積み上げ型でやっていくと、あれもこれもということになり、1つの都市像、3つの基本方針に絞るのが難しくなってくると考えている。重視したい着眼点を上から俯瞰するという視点で意見を出すように、企画専門委員会の委員にお願いする予定である。
- ・行政だけではなく、民間事業者や市民一人一人が主体となった取組が重要であると思う。どの分野でも行政だけでは対応できない課題もあり、市、市民、民間事業者が三位一体となってやることがわかるようなものをまちづくりの基本方針にはぜひ入れて、その上での施策の大綱があるといいのではないかと感じた。

#### 基本構想 施策の大綱素案について

- ・本文が長く、通読すると別々の人が書いた感じが否めない。やむを得ないのかもしれないが、全体を通してリライトするか、あるいは施策の体系図との関連で、大綱本文の段落と、施策の体系図はかなりの部分で一致していると思うので、箇条書きの部分で設けるなどすると、長文でも読みやすくなるのではないかと感じた。
- ・リード文について、主語がはっきりせずわかりにくい部分があるので、もう少し推敲が必要であると感じる。各専門委員会で検討して欲しいと思う。
- ・分野ごとに書きぶりが異なるのは気になる。接続語で文章を繋いでいる分野もあれば、1つ目、2つ目と繋いでいる分野もあり、後者の方が読みやすいと感じる一方、各分野でそこに至るまでの議論の経緯や課題の違いもあると思うので、書き方や表現のレベルは精査していく必要があると感じた。
- ・施策の大綱が、施策の体系から引っ張られて、説明が羅列されているという書きぶりになっており、同じことを言っているように感じる。施策の大綱は施策の体系から少し離れて、もっと基本的な考え方を書くことができれば面白いのではないかと感じた。例えば、2の健康福祉分野においては、行政として考えなければならない地域包括ケアの推進策や、サービスの基盤整備や使いやすさなどが、総合的にどう提供されていくべきなのかということ、また、サービスが持つ予防的な側面

や家族ケアなど互助との関係を公助はどう持つかだとか、そういったことがどこかに出て来るべきなのではないかと思う。

#### 基本計画 施策の体系図素案について

- ・体系図上で、小項目に「ア」、「イ」、「ウ」と振られているが、市民は小項目に序列や順番があるように感じて気になるのではないか。本文上で引用の必要がないのであれば、外す方が誤解がないのではないか。見出しを太字で示す程度で充分ではないか。
- ・基本計画の7つの大項目と、施策の大綱が同じであるのはわかりにくいと感じる。大項目に入るときに、文章から始まるのではなく、見出しのような形で、例えば1は「地域の環境について」などというように、市民が見たときに大項目にはどのようなこと書いてあるのかということが一目でわかるような書き方をした方がよいのではないか。
- ・7つ目の各地域に関する大項目については、今まで新市としての一体感を醸成するために頑張ってきた地域づくりの経緯や、地域庁舎の組織などを考えると、果たして必要なのだろうかと思う。
- ・鶴岡市は一つなので、一つの計画ですべての地域にあてはまるような記述をすればいいのかもしれないが、地域の多様性がある中でそれもなかなか難しいと思う。むしろ多様な地域の特性を伸ばしていくことも大切であり、前計画では基本構想の中で別立てとしていた地域振興を、新計画案では、あえて施策の大綱の項目の中に加えているという考え方に基づいて、施策の体系の素案ができていると理解している。
- ・地域によってお祭りなどの催しや文化も違うので、それらを大事にして、違う文化を尊重し合いながら新しい鶴岡市を作っていくためにも、7つ目の各地域に関する大項目も必要かと思う。
- ・地域コミュニティの項目にある住民主体の地域づくりや、地域福祉について、旧町村地域や集落単位でもやり方がそれぞれであり、地域にあった進め方にしていただきたい。
- ・観光振興の項目において、小項目に加茂水族館といった固有名詞が出てきているが、出羽三山やサムライゆかりシルクといった日本遺産なども加えていってもいいのではないか。総合計画にはなかなか謳えないのかもしれないが、固有名詞が出てきていないという印象がある。鶴岡市にはいろいろなオンリーワンの資源があり、それらの活用方法もこれから検討されていくものと思うが、念頭に置いていただきたいと思う。
- ・インバウンド誘客は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて喫緊の課題であると思うが、Wi-Fiや外国語キャプションの整備など、受入態勢がまだ整っていないと思う。

#### 基本計画の取組方法 未来創造プロジェクトの設定について

- ・タイトルに「推進」や「応援」など、アクションの部分がいったものと、項目だけになっているものが混在しているので、推進、応援、創造など、アクションを入れるならば入れる形でタイトルを整理した方が、全体的にわかりやすくなるのではないか。
- ・未来創造プロジェクトは施策の大綱にもっと組み入れるべきなのではないか。7つの施策の大綱の上に、3つのまちづくりの基本方針が出てくるが、今までの総合計画の反省を踏まえて、どのような括りとなるのかということが気になる。例えば、食文化や知的産業など大きな括りが未来

創造プロジェクトにもあり、それぞれ目標があるのだと思うが、そうした目標に向かって市民が進むようにと作るのが総合計画ではないかと思う。

- ・市民がわかりやすくこれに向かって10年間走りましょうというのがあるのはよいと思うが、どれも大切な分野ばかりであり、どうしたらいいのかなという疑問もある。
- ・せっかくプロジェクトを設定するのであれば、施策の大綱や基本計画の中に組み入れて、プロジェクトの内容もしっかり盛り込まれているという形にした方がより具体的なのではないか。
- ・若者・子育て世代の応援プロジェクトの中でも、「働く」施策や「住む」施策など、施策という言葉で完結されているものがあるが、どういった施策なのか、より具体的な説明が盛り込まれるべきではないか。
- ・未来創造プロジェクトは、各部署が横断的に関わってくるもの、いわゆる横串を刺すようなものという理解をしている。プロジェクトに関わる細かな取組は、施策の体系の中、あるいは事業の中に位置付けられていくということであり、対応がきちんとされるということが大切である。
- ・未来創造プロジェクトというネーミングが問題だと思っており、次の10年でこれを重視するのだというふうに受け取ってしまう。そうではなくて、横串でプロジェクトチームを組んでやるべきものを抽出したものであって、向こう10年間で新たなものも出てくるかもしれない。施策の大綱に書かれていることを進めていくための取組方法であり、そういった意味で構成素案の中でも基本計画の取組方法に位置付けられているのだと理解する。
- ・城下町つるおかりブランディングプロジェクトについては、城下町の風情が感じられるような鶴岡公園周辺のまちづくりを進めていただきたいと思う。また、大宝館への若者の来訪も増えているが、オンラインゲームがきっかけとのケースもあり、いま何が流行しているのかということを探っていかなければならないと思う。

#### 計画の推進

- ・総合計画ができたところがスタートラインであって、行政と市民が一体となる上でも、行政も適材適所の人材配置をしていただき、市民も一体となって命輝く鶴岡をつくっていききたい。
- ・行政任せではなく、住民としても頑張りたくなるような、住民と行政が一緒に取り組んでいけるような計画であるとの印象を受けた。
- ・総合計画は市民のためのものであり、理解してもらえる内容でなければならない。情報発信も重要である。前計画の普及版もわかりやすかったが、学校版もあるといいのではないか。SNS、ICTの活用しながら、小学生からお年寄りまで浸透できるような総合計画にしていかなければならない。市民から参加してもらい、住みたくなるまち1番になる計画になるとよいと思う。
- ・PDCAサイクルは基本計画の取組方法にも位置付けられたが、市役所庁内でも議論されていくものと期待している。